

## 平成28年度 徳島県立総合大学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 平成29年3月21日（火）
- 2 場 所 徳島県庁10階 大会議室（徳島市万代町1丁目）
- 3 出席者
  - (1) 委 員 21名中18名出席（別添「名簿」参照）
  - (2) 大学校幹部 飯泉大学校長（知事），美馬副校長（県教育長）  
山本県立総合大学校本部長，各学部長ほか
  - (3) 事 務 局 阿部事務局長，長篠副事務局長ほか
- 4 次 第
  - (1) 開 会
  - (2) 大学校長挨拶
  - (3) 委員紹介及び会長等選任
  - (4) 議 事
    - ① 県立総合大学校の概要及び取組状況について
    - ② 「まなびーあ徳島」新たな10年の展開方針（案）について
  - (5) 閉 会
- 5 配付資料
  - (1) 資料1 徳島県立総合大学校設置要綱  
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程  
徳島県立総合大学校運営協議会公開要領
  - (2) 資料2 県立総合大学校の概要及び取組状況
  - (3) 資料3 「まなびーあ徳島」新たな10年の展開方針（案） ほか
- 6 議事概要
  - (1) 開会
  - (2) 徳島県立総合大学校長（飯泉知事）から挨拶
  - (3) 委員紹介及び会長等選任
  - (4) 議 事

## ○ 事務局

去る2月11日に、本協議会の前委員の2年間の任期が満了し、翌12日付けで再任の7名と新任の14名の合計21名の方々に委員にご就任いただいております。委員の皆様のご紹介は委員名簿をもって代えさせていただきます。

それでは、まず、会長及び副会長の選任をお願いします。「運営協議会設置規程第3条第2項」の規定により、会長及び副会長は委員の互選により定めることになっておりますが、いかがいたしましょうか。

## ○ A委員

前の教育長で総合大学校の運営に詳しい四国大学の佐野委員に会長をお引き受け頂くのが良いと思いますが、いかがでしょうか。

## ○ 事務局

ただ今、大西委員から佐野委員を会長にご推薦頂きましたが、いかがでしょうか。

## ○ 各委員

(異議なし)

## ○ 事務局

それではご異議がないようですので、佐野委員にお願いしたいと思います。佐野委員、よろしくをお願いします。

それでは、「運営協議会設置規程第4条第1項」の規定により、会長が議長となる旨定められておりますので、議長席へお移りください。

## ○ 会長（佐野委員）

ただいま、会長に選出をされました、四国大学の佐野でございます。不慣れでございますが、一生懸命、役目を努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これから議長を務めさせていただきますが、委員の皆様方におかれましては、円滑な議事進行にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、副会長の選任についてですが、他の委員の方からの推薦がないようでしたら、私から推薦させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

## ○ 各委員

(異議なし)

## ○ 会長

小林委員さんと、本日は欠席されていらっしゃいますが前回に引き続いて徳島大学大学開放実践センターの馬場委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○ 各委員**  
(異議なし)

**○ 会 長**

ご異議がないようですので、小林委員と馬場委員に副会長をお願いすることといたします。よろしく申し上げます。

**○ 会 長**

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

この運営協議会は、設置規定第2条にありますように、大学校の運営に関して、委員の皆様からの助言、提言をいただく機会でございます。

本日の会議は、午後3時30分を終了予定としております。新たに委員にご就任いただいた方も多くいらっしゃいますので、限られた時間ではありますが、できる限りすべての皆様にご発言いただけるよう、議事を運営して参りたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の議題は、

- (1)「県立総合大学校の概要及び取組状況」について
- (2)「まなび一徳島」新たな10年の展開方針(案)について

の2件でございますが、共に関連性の深い議題でございますので、事務局から一括して説明をいただいたのち、皆様からご意見、ご提言を賜りたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

**○ 事務局**

議事(1) 県立総合大学校の概要及び取組状況及び議事(2)「まなび一徳島」新たな10年の展開方針(案)について合わせて説明

**○ 会 長**

ここからは、説明に対するご質問やご意見、また県立総合大学校の運営についての御意見、御提言などを頂戴できればと思います。

**○ A委員**

徳島県の農林水産業は大変質の高いものが作れていますが、人前に出て行くのが苦手な方が多いように感じます。県内の方にもどんどん徳島県の農林水産物に関して知っていただいて、徳島県に他の県から誰かが来た時に徳島県の誰もが徳島県の食べ物にはこんな美味しいものがあるんだよって言うことができたらいいなと思っています。僕ら生産者の方もどんどん伝えていきたいと思っているので、特に鳴門金時や今の時期でしたらうちの畑の人参でも構わないのですが、是非、外に、アウトドアと言うか、僕らの畑に来ていただいて実際に畑でやっているところで講座みたいなことができれば親しみやすくなるのではと思っています。どんどん第一次産業と徳島県の皆さんとの距離を近づけていけたらと思っています。

## ○ B委員

この度、三好市が国からCCRCの計画が認定されたということで、推進法人として今から実践をしていくところですが、移住者の方を呼び込むにあたりまして、是非とも、勉強したいっていう方が多いと思うんです。そういった方の学びの場というのを、今、実践としてタイ料理であったり和菓子づくりであったり、また、ウォーキングであったり、色々な取り組みをしているところですが、何かタイアップできたらいいかなって思います。是非ともこれから協力していただきたいというのが私のお願いです。

## ○ C委員

この前「まなびーあ」で講座を持たせていただき同学年の大勢の受講者さんの前ですごくやりやすかったです。移住のことは、東京や大阪とか大都会の人に向かってやっています。この前の講座をやらせていただいた時に、受け手側の勉強会をこれからたくさんやっていただかないといけないということがテーマの一つにあげられると思います。特に受講生の皆さん、身につまされるという感じでした。近所に移住者の方が来たらどうしたらいいのかとか、今問題になっている空き家、自分も空き家をたくさん持っているとかいうことで、どんどん話を聞いてくださったり、後でも手を挙げて、聞きたいことがいっぱいあったりしたので、これは絶対やっていかなければいけないことだと思ってます。興味をものすごく持っていただいています。また、年齢的にもベテランの方が多いので、地域に根付いている方が大変多いと思う。その方たちが興味を持って移住者たちを受け入れたり、空き家をどうしていったらいいのかということを考えていただくようなテーマで勉強会をやっていただけたらいいなって本当に思いました。

## ○ 事務局（本部長）

皆さまには日頃から大変お世話になってます。今3人の委員からそれぞれご提言をいただきました。ありがとうございます。まず、食のPR、農業に携わる人材の育成については、農業大学校あるいはアグリビジネススクールという形でやっております。そして実際に作られた物をうまくPRしていく中で、やはり本当の美味しさを分かって伝えていくというのは確かに必要だと思いますので、そういう実践的な講座というのを、今までも農林水産部を中心にやっているのですけれど、よりPRを上手くできるような、効果的な講座を考えて参りたいと考えております。

生涯活躍のまちづくり構想につきましては、三好市あるいは池田博愛会の方で非常に意欲的な取り組みをされておりました敬意を表する次第です。ご承知のとおり、CCRC構想の中では、就労、健康作りとともに、学び、知的好奇心を満たすということが非常に大事だろうと思っています。移住してこられた方については、徳島ならではの学びというものもあると思っています。そうした関係の中で我々としても積極的な関わりを持たせていただければ有り難いなと思います。また、西部の方で言いますと、大学のサテライトオフィス、徳島大学の「にし阿波学舎」であるとか、美馬の方

の四国大学のサテライトオフィスであるとか、大学の皆さんと連携する中で相乗的に色んな学びの展開ができればとも考えています。

また先般の地域未来学講座では大変お世話になりました。確かに会場の皆さんとキャッチボールするようなやりとりの中で大変御好評をいただいたと聞いています。学び、実践という切り口の中で、双方向で学んで、地域に還元していくというアプローチが非常に大事だと思っています。少しずつ我々もそういった講義の手法を取り入れつつあります。双方向、共に学ぶという取り組みをより強力に展開していきたいと思っています。今後とも御指導をよろしくお願いします。

## ○ D委員

先ほど紹介していただきました平成28年6月のオンリーワンとくしま学講座でラフティングのお話をさせていただきました。聞いてくださった方が大変真面目にノートを取りながら、分からないところは質問をしていただいて、質問がすごく的確なところを突いてらして、「県西部ばかりやっているが、こちらの人間は全然知らないの、撫養川とか旧吉野川でラフティングを見せてもらえないのか」という御意見をいただいたり、「新町川で色々なイベントもあるので、そこでそういったパフォーマンスを見せてくれたら、吉野川194km流れているのが上部の方も中流もすごいんだなというのがより分かる」という大変有り難い意見をいただいたりしました。私たちも次は（徳島）市内でのパフォーマンスが出来ればいなとは思いました。私たち、県西部は、吉野川の恩恵を受けています。そのお陰で水が豊かということで、今年10月にはラフティングの世界大会が開催されます。そして池田ダムがすごくいい水があり、平静面があるということで、2018年、平成30年には、ウェイクボードの世界チャンピオンシップの開催が決まっている。そのことにつきましては、知事にも御尽力をいただきました。ありがとうございました。そこで、県西部の方では水に親しむということで開催していただいた「ラフティングを親子で体験」というのがございます。今からウォータースポーツに関わって行って欲しい子どもさん達のために、そういう講座を1回で止めないで、もうちょっと続けていただきたいと思っています。水で遊んでいただいて、水は危険と隣り合わせなので、何が危ないのかということも経験していただいて、親子でそれを分かっていたら、川とか水のあるところに行くときは、ライフジャケットを着ければ怖くないし、自分たちの命を守れるというのを親子で分かっていたら、そういうことを繰り返していけば広まっていくのではないかと思います。是非とも継続して2年3年と言わずしていただきたいと思っています。

## ○ E委員

市民の方から毎日と言っていいほど違う案件で相談が来ます。小松島市ですので、あまりないのじゃないのかなと思いつつながら勤務を始めたのですが、そんなことはなくて、皆さんすごく困ってる状態が多いんです。私も1年目なのですが、最初は消費者教育ではなくて消費者保護ということでレベルが違い過ぎる業者と消費者間の差を埋めるために保護をしていこうという流れの中で始まっているらしいのです。それが、

私が1年勤務して感じましたのが、少しだけ甘えに繋がっているのではないのかなというのがあるんです。高齢者の方、障がいを持ってらっしゃる方、あと知識不足な面というのは、それぞれあって全然大丈夫なんですけれども、確認を怠ったが故に、ちょっと自分で怠けてしまったが故に業者に付け込まれているというのが日々感じるところです。大学校長もいらっしゃるところでありますので、消費者庁を招くプロジェクトを組んでいる徳島県として、今後、こういった学び方を、ワンランク上の消費者の教育をやっていくのか、今まで（講座に）出てきてくださっている方というのは、これからもどんどん出てこられると思うんです。でも、実際、消費者が困ってしまっているのは、出ていけない方達、あと、相談する知り合いとかがいない方達というのが、相談も出来ないが故に、そのまま泣き寝入りになってしまっている状態があるんですね。ですので、そういったところを含めてもう一度ワンランク上の消費者教育ということで、皆さん達にお知恵をお借りして話を進めていって、その上で、大学で「まなび一あ」として楽しい受講として考えていけたらと考えています。

## ○ F委員

県立総合大学校では、4年間、「おもてなし講座」をしております。先ほども御意見が出ていましたが、私も実感としましては、皆さん英語能力はあるんですけれども、人前に出て話をするのが苦手という県民性のようなものを感じました。そして、大歩危の方で今年、ラフティング世界大会があって、英語の需要というのはだんだんと増えて行くのですけれども、ずっと4年間実感してきたのは、やはり教室の中だけで勉強するのではなくて、実践的に外に出て勉強すると、また違うかなと思います。例えば、先日、大歩危で（英語講座を）した時に、会場からお土産物屋さんまで外国人の方と一緒に話をしながら歩いただけでも、教室の中では、気付かないようなこと、外国人からの質問、例えば、飛んでいる鳥「あれは何の鳥ですか」とか、そういうことを聞かれますので、より実践的な英語教育がなされて、参加者の人も楽しいのではないかなと思います。

## ○ G委員

シルバー大学校は今年で36期が卒業です。大学院は13期が卒業になります。今、OB会は人数がだいぶ減ってきています。どうしてかと言うと講座は1年間前もって取り組んでいかなければいけないんですけれども、OB会だけの参加になりますとどうしても人数が限られてしまいます。大学院は大学校を出なくても大学院に行けるという面がありまして、大学校に入って勉強しなくても大学院に直ぐ行けば、その方がレベルアップできるという意見もだいぶあります。だから大学院がすごくレベルアップして人気があります。大学校はどんどん落ちてきたような感じもします。だから今、OB会の方では、出来るだけ人数を講座の時に集めたいということで、今、本部の方がおっしゃっていただきましたように、講座のやり方とか、PRの仕方とか、それから、出来ましたら一般公開みたいな感じで持って行っていただいたら、人数も増えていくんじゃないかなと思うんです。せっかくいい講師の先生をお呼びしても人数が少なかったりするとちょっと気の毒なような感じもしますし、また、張り合いがなくな

ってしまいます。大学校も大学院も軌道に乗ってきておりますし、私としては、本当に有り難かったなと思うんです。これから高齢化社会がますます進行していきますので、その人たちのやりがいのある場所、また、生きがいのある場所としてもすごくいいと思います。出来ましたら、それを利用させていただいて、大勢の方が楽しく勉強しながら自分の人生を送れるようなものに持っていければいいなと考えています。講座をどうしたらいいかなというので、参加型の講座を今のところは大変喜んでいただいているので、そういうふうに来ましたらもっていただけたいかなと思います。

## ○ 事務局（本部長）

4人の委員の皆さん、御提言ありがとうございます。

まず、体験型講座の継続ということですが、これまでも西部校を中心に御承知のとおり地元の西村委員を始め皆さんの御協力をいただきながら、県西部ならではの吉野川でありますとか山であれば剣山などの自然環境を活かした形で実践、体験の講座を精力的にはやらせていただいているところです。お話がありましたように、親子で危険であるとか魅力であるとかを体感、実践するということが非常に意味があると思っています。そうした意味で、これまでの取り組みをさらに、地元の皆さんの御協力を賜りながら展開していくことを、これからも努力してまいりたい。

消費者教育の関係で、ワンランク上の消費者教育、賢い消費者教育というようなお話もあったかと思えます。冒頭、知事の挨拶にもありましたように、消費者行政の新未来オフィスが7月頃には出来るということで、これは、挙県一致で県を挙げて消費者教育・消費者行政を進めていこうという取り組みの中でやはり、学びのアプローチという意味においても、消費者教育という生涯学習の中で取り組んで行くということ、今、非常にタイムリーであり重要であると、これから特に考えていきたいと思うんですけれども、1点は、コアになる施設というのは勿論ご承知のとおり消費者大学校あるいは消費者大学院であって、こちらの方でも新しいカリキュラム、例えば、エシカル消費であるとか食品表示コース、新しいコースを作って、より魅力がある、より学習の幅を広げていこうということをさせていただいている。また、先ほどもポンチ絵の中でありましたように、我々、政策研究機能、政策研究センターを持っています。来年度のテーマとしては、先ほど御説明させていただいたように、特に消費者教育・消費者行政にあてた形の中で、色んな県庁の各部局、あるいは大学の皆さんからの色々な提案、お知恵をいただきながら、そういうものを学びにつなげていく、ワンランク上の学びにつなげていく、そんなことを試行錯誤になるかもしれませんが、頑張っていきたいと思っています。

次のお話もやはり、キーワードは実践であったりフィールド学習だということだと思います。ラフティングの世界選手権あるいはウエイクボードの世界大会がありますし、日本全国で言いますとオリパラから始まって、その前には、ワールドカップラグビー、色々ワールドワイドな大きなイベントがあるということで、やはり語学、言葉でおもてなしをするというのは非常に大事だと思っています。その中で、我々、そんなに大がかりなことは出来ないかもしれないんですが、少し実践ということで、実際、外国人の方と交流することによって、実践的な対応力を付けていくという、まさに委

員がおっしゃっていただいたことをございますとか、あるいは徳島ならではの例えば観光地だとか観光の魅力を紹介する、独特のフレーズみたいな、そんなのを学ぶだとか、そうした少しずつですね、色々御意見を賜りながら、カリキュラムの充実のようなことを考えていきたいと考えてございますので、また、御指導賜りますようお願いいたします。

シルバー大学校の取り組みで、受講生が、というようなお話もあったかと思いますが、先ほどPRの一環として、一般公開講座みたいな、せっかくなのでいい講師さんに来ていただいているのでというお話がございましたので、ご承知のとおり、主催は「“あい”ランド推進協議会」というところでさせていただいていますが、その色んな講座の広がりと言うのでしょうか、PRと言うのでしょうか、そのあたりを色々一緒になって検討もさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

## ○ H委員

徳島のPRというか、徳島の事柄でお願いしたいことがあるんです。いざなみ神社というのがどこにあるか皆さんご存知でしょうか。いざなみ神社は美馬市穴吹町の舞中島にあるんですけれども、これは全国に徳島県だけなんです。いざなぎと名前が付く神社は全国に8社あるんですけれども、いざなみ神社は徳島県しかないんですよ。このことを徳島県民のどれだけの方がご存知で、自慢にして観光資源にしているかということ。また、天皇家が即位する時の衣装、あらたえは徳島県の三木家が作っております。これもなぜ阿波なんでしょうか。今の天皇も三木家からいっております。それから徳島市国府町それから名西郡石井町の気延山（きのべやま）、ここには「八倉比売神社（やくらひめじんじゃ）」というのがありまして、天照大神を祀っているんです。古墳が200ほどあるという非常に尊い山です。紀元前380年に創建されています。この神社は、昔は、現在の伊勢神宮より広い敷地があったそうです。このような事柄で、古事記の世界というのは、実は阿波の話そのものというのもよく言われているんです。古事記の最初の話が、淡路から伊予、伊予というのが阿波で、予が愛媛のことです。徳島は昔、伊の国と呼ばれていて、伊の港の水辺の藻のところで「いつも」で「出雲」と呼ばれていたらしいんです。だから出雲のところにスサノオが居て、それから現在の出雲の国に行ってスサノオが亡くなったっていうふうに言われているらしいんです。国産みの中には、そこから九州、伊島、対馬であって、現在の伊勢神宮がある三重県とか、それから出雲がある島根県なんかは、古事記の世界には、国は作られていないんです。そういうところから見ると、徳島というのは非常に、伊勢神宮や出雲大社よりもすごい神社があるという現実をもっとPRしてほしい。講座に入れて欲しいんです。もう1つは、県民にどのようにアピールするか、子ども達にどのように知らせるかということを考えていただきたい。そうしたらものすごい観光資源になるんじゃないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## ○ I委員

仕事柄、この前、昨年末に構築された「フォレストサイエンスゾーン」のキックオフシンポジウムに行ってきました。これが総合大学校の主催講座のひとつであること



は、パンフレットを見て知りました。それもあって聞きたいのですが、その中で、徳島大学の中村先生のセルロースナノファイバーとか、鳴門教育大学の米延（よねのぶ）先生の年輪年代学という講座が基調講演でありまして、それぞれ1時間ずつの講座だったんですけれども、聞いている人が林業関係、建築、設計者などでしたので、専門家なのでとてもわかりやすく説明をしてくださいますして、研究されている様子をととても楽しそうに話されているのを聞かせていただいて、もっと若い頃にこういうお話を聞いていれば、将来の道が拓がったんじゃないかというような気がしました。やはり、今年度の計画にもありましたように、とくしま科学技術アカデミーの開講事業ですとか、こういう第一線で研究されている先生方のお話を子ども達、高校生、中学生の方に講義をしていただくというのは、すごくいいなと思います。私たち大人も是非、聞いていくと徳島を誇りに思えるようなそんな気がしました。あと、10年計画ですとか、今年度の事をみますと、今求められているような、ニーズにあった講座等が少しずつ増えてきてとても喜ばしいと思います。出来れば県民がちょっと勉強したいなと思った時には、ここのホームページを見て、この講座行ってみようとか思えるような、アピールをしてもらいたいと思うのと、よく講座の後、こういう講演会やりましたとかいうのを後でニュースで聞くことが多くて、ちょっと聞き逃したなと思ったらホームページからeラーニングみたいな感じで、聞き逃した人たちに向けて、時間があるときに見てもらえる仕組みが出来ればいいなと思いました。

## ○ J委員

ソーシャルメディアということで、徳島県の場合、徳島ならではの魅力というのを多くの人にお届けするというので、ツイッターとかフェイスブックとかいろんなソーシャルメディアを利用して、情報発信されていると思うんですけれども、その際に非常に重要になるのが、情報セキュリティの確保ということになると思うんです。徳島県の場合は、ソーシャルメディアのガイドラインというのが平成25年度に作られて、かつ、各部局の方でも作られて、徳島県の職員の方々を対象にして、こういったことを守りましょうということで、発信の際の注意事項としてまとめられていると思うんですが、例えば、総合大学校としてのソーシャルメディアのガイドラインがどこかに載っているかなと見てみたのですが、まだないのかなと思います。情報発信をする以上は、発信する職員の意識付けというんですが、そういったセキュリティの確保、人権侵害に繋がらないような文言として発信できるようなガイドラインが必要です。こういった会員の方々が情報発信する場合においても、セキュリティ違反にならないように、人権侵害にならないように、そういったガイドラインを簡単に作って、情報提供してあげるといっても大切ではないのかなと思います、1点提案させていただきました。

もう一つは、違う立場なんですけれども、とくしま産業振興機構で、徳島の糖尿病の重症化予防というのをやらせていただいております。徳島県の場合は、ご承知のとおり、10万人当たりの死亡率が非常に高いと言うことで、ワースト1というのがずっと続いておりましたけれども、昨年、一昨年と5位とか7位とかになっては来ております。ただ、とはいいいながら10万人当たりの死亡率が全国平均10人程度にしま

すと、14～5人ということで、まだまだ非常に高い状況にあります。徳島県では、いろいろと取組みをしているわけなんですけど、文部科学省の指定を受けて、「とくしま『健幸』イノベーション構想」推進地域ということで、教育長にご出席いただいております。知事が会長と言うことで、旗を振っていただいて、ワースト1というのをピンチをチャンスに変えようと言うことで、いろんな取組みをしていただいているわけなんですけど、情報発信をやっている割には、例えば、こういう県立総合高等学校の講座でまとめられて作られているのかなと思ってもなく、結局、せっかくこういった指定を受けてやっけていて、いろんな研究成果でありますとか、身近な取組みがバラバラにはあるんでしょうけれども、まとまって健康寿命を延伸するような事業の一環として、総合高等学校の講座でやっていただければありがたいなと思っております。

### ○ 事務局（本部長）

徳島ならではの歴史とか文化をより深く知る講座をというような意味合いの意見をいただいたと思います。我々、本部主催講座をさせていただきますと、歴史文化に対する受講生、県民の皆様の興味関心が非常に高く、いろんなテーマでやりましても非常に人気がある講座です。そうした意味で、徳島ならではの歴史文化を深く学んでいる方、例えば、あらたえ、私も三木家当主から講演を聞いたこともございますが、語っていただく方をどう確保させていただくのかということもございます。例えば、とくしま学博士の方も、自分のそれぞれの研究テーマで発表して、審査を受けて、とくしま学博士になっていただいているんですけど、それぞれ古文書等を勉強して、独自に歴史文化を勉強していろんな形でご活躍していただいている方もいらっしゃいます。県でいいますと博物館ですとか、あるいは、大学・高校の歴史の先生等、様々な分野の先生がいらっしゃると思いますので、そうした先生にまた御協力もいただきながら、できる限りそういう徳島ならではの歴史文化講座の充実についても意をもちいて参りたいと考えております。

それから、フォレストサイエンスゾーンの話から大学連携での学びというのがありました。政策的にも今年度、農林水産部を中心に、農業（アグリ）、林（フォレスト）、マリンの3つでそれぞれいろんな施策を展開しております。先ほどお話もありましたが、徳島大学に、今年度、生物資源産業学部が出来ておまして、県と学の連携の中で、積極的な展開をしております。大学との連携の中で充実した学びというのをこれから考えて行きたいと思っております。また、見逃したときのeラーニング的なもの、我々もアーカイブ的に準備しているものはあるんですけども、そのあたりの充実もありますし、また、広く講座を受講していただくという意味で、ICT関係、テレビ会議システムですとか、いろんな技術も使いながら、出来るだけ広範囲に講座を広げていくということも考えていきたいと思っております。

### ○ 事務局（事務局長）

ソーシャルメディアを使う際のセキュリティの問題について、ご指摘をいただきました。例えば、県職員でありましたら、先ほどお話にもありました、ソーシャルメディアガイドラインを作りまして、コンプライアンス研修等でかなり頻繁に受講しております。他にも学生向けの講座等もあると思っておりますが、抜けているのは一般の方がソ

ーシャルメディアを利用する際の事だと思えます。

一方で、県民の方が県の魅力をソーシャルメディアで発信するというのは、県のPRにとっても有益ですし、どんどん広げていかないといけないと考えておりますので、そういう講座を充実させていきたいと考えております。その場合に、充実させると同時に、その場でセキュリティの事も十分にお伝えする、十分に情報を共有するといったことを今後広めていきたいと考えておりますので、ご助言をよろしくお願ひしたいと思えます。

## ○ 事務局（本部長）

糖尿病の重症化対策の関係で、もう少しパッケージにまとめて情報発信、講座内容を周知していく必要があるんじゃないかということですが、座学を含めて健康福祉学部を中心にいろんな講座、ウォーキング的な実践講座もさせていただいているんですが、県民の皆様にとまとめた形でパッケージして情報が伝わるように出来るのか工夫するように考えてみます。

## ○ L委員

受講されている年齢層が今日の資料とかホームページからわからなかったんですが、講座一覧表を見させていただくと若い方から年配の方まで、様々な方が、これも「まなびーあ徳島」ですかとめくっていたら思ったんですね。ただ、実際この冊子を配って、先ほどの資料では7000部、年3回ということだったんですけども、中を見ていたら、大学でいうシラバスのようなものだと思いますので、こういうものをPDFで配付できたら一番、インターネットに親しんでいらっしゃる方にとってはすごく見やすいというか、例えば、自分が知らない物の発見があつて、こういう授業もとってみようと思うと思えます。強い思いを持って探される方、例えば、私はダンスのバレエを習いたいんだという方がいらっしゃって、先ほど見ていたら、講座の中に「ズンバ」というのがあったんですね。そういうものに繋がるとか、そういう学びの繋がりとかがあるかと思えますので、やっぱりこういう形（冊子）でも大事だと思いますけれども、PDFとかですと若い世代の方だったらダウンロードして、ご自宅で見るという形が出来ると、おそらくもうちょっと自分が興味関心があるもののプラスα、それに近いものに出会えるというのがあると思えますので、今だとキーワード検索という形のもの、後は、主催のものと連携講座一覧で別になっていると思えますので、問題が無いのであれば、年に3回同じような形でPDFを出してみても、若い世代が興味関心が自分のフィールド以外のところに向くようになって面白い展開が出来るんじゃないかなと思えますので、いかがですかという提言です。

## ○ M委員

2点ございます。今、ご指摘いただいたものと同じなんですけれども、PRを一工夫するのはすごく大事ななというふうに感じました。私自身は、ずっと東京に住んでいて、3年前にこちらに赴任してきたものなんですけれども、今回委員にさせていただいて初めて、こんな講座が開かれているんだと、今日分かって感心しているところで

す。ですので、多くの方、この内容を知っている方ってそんなにいらっしやらないのかなという印象を受けておりますので、県民の多くの方が、ここにいけばこうやって学べるんだということがどこでも簡単にわかるような仕組みを考えて行く、PRを一工夫されることが大事かなと感じていました。

2点目ですが、消費者教育に携わっておりますので、先ほどもお話がありましたように、全国をリードする消費者教育をどのように行うのかということが求められていると思います。日本全体的にあんまり消費者教育っていうのは、正直言って盛んじゃないんですね。ですので、徳島が本当に全国をリードする。関心があまりなかった方に対して、実際に集まっていたら、行動の変化に繋がるような消費者教育っていうのを考えていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

## ○ N委員

私が普段しているのは、子ども達に、読み聞かせでもなく、朗読でもなく、昔話を覚えて語るという、岩手の遠野のおじいちゃん、おばあちゃんがしているような昔から語り継がれてきた物語を子ども達に語るという活動を「徳島お話を語る会」というところで、ボランティアでしております。保育所、幼稚園、小学校、中学生、高校生まで絵本を読みに行ったり、お話会に行っているんですが、そういう活動が講座の提案にどのように繋がるかわからないんですが、子ども達のところに行く時に、やはり情報化社会だし、子ども達とっても忙しいし、親子のコミュニケーション不足とかいろんなことを感じて、読書する力、考える力、読む力、聞く力すべて大事かなということ活動を活動の中で感じております。あと、幼稚園、保育所に行く前の子ども達0、1、2歳の子ども達と親のところ童唄の講座で行っているんですが、親子のふれあいなどの関わりもすごく大事にしたいなと思うし、この講座一覧表の最初から最後まで見てないのでわからないのですが、私が子育てをしていた時代と違って、今の若いお母さん方は、いろいろなところに子どもを連れて出かける機会っていうのが増えてきているとは思いますが、まだまだ行く場所って少ないと思うんですね。是非、若いお母さん達が子ども連れでも参加できる、例えば、まだねんねの子だったら、子どもをそこにおいて、腹ばいにしてヨガをしたりとか、お母さんとレースしたりとか、そういうことも可能だと思うし、お母さん自身が楽しめる講座、託児付きにするなり一緒に子どもがいてふれあいながら何か出来る、そういう講座を増やして、もっとお母さんがいきいきとした子育て、もっと楽しくお母さん同士の繋がりも出来るかなと思うので、そういう講座も、もうあるかもしれないんですが、考えていただけたらなと思います。余談ですが、私、今年第九に参加させていただいて、知事もお見えになられたんですが、私は徳島県人じゃないんですが、ほんとに越してきて徳島で、第九が誰でも歌えるって募集があって、参加させていただいて、すごく感激したんですね。なんか徳島に来てよかったなって思って感動しました。

## ○ ○委員

放送大学も生涯学習の一翼を担っているつもりで地域貢献に取り組んでいます。その中でも、県立図書館との共催での「まなびの森講演会」、そして、放送大学のある

日亜会館で、県とか大学に後援していただいて、「知の交流拠点プロジェクト」を開催させていただいています。今日の委員の中でも2人の方にお話をいただいたところです。非常にそういうことでは、県とは連携をさせていただいているんですけども、もう少しうまくお互い発展できないかなと考えています。その中で、先ほどから出てくるんですが、例えば、とくしま学博士になるにはシルバー大学校、また、放送大学では今度、四国大学の協力をいただいて学芸員になる資格も得られるというふうな具体的な資格を得られるような場合は放送大学とか、全体のいろんな生涯学習の場があるんですけど、それが見える化っていうのか、放送大学だけにしてくれっていうのではなく、全体でとりまとめて何かPRできることがあったらありがたいかなと、こういう冊子の中でも放送大学を書きさせていただいているんですけど、どっちかというベタになってしまってますね、位置づけがポンとした時にわかりにくいんですね。そこらももし出来ればなと思います。後は、知の交流拠点プロジェクトの講座についても来ていただける方がわりと固定化されてしまって、広がり非常に少ないんですね。もう少し広がりを取りたいなと考えているところなんですけど、その中でやっぱり魅力作りが大事かなと思います。魅力作りになると放送大学も総合大学校も同じになって、やっぱり魅力ある講義というのが一つ大きいと思いますが、もう一つは先ほどあった、体験とか実践とかいうのが非常に大事。それと放送大学の方でこの頃取り入れてかなり人気があるのは、同じ授業の中でもグループワーク。共通して言えることは、たぶん彼らも参加型、そういうふうなところももっと組み入れると人気が上がってくるんじゃないかなとそういう考えです。私の方の願いとしては、学びの場として全体の位置付け、マッピングみたいな感じで紹介していただければ非常にありがたいかなと思っております。

## ○ P委員

私はシルバー大学校は吉野川校なんですけれども、今日、徳島県の方おられますけれども、吉野川校それからシルバー大学校の大学院、これは健康スポーツ講座を卒業しまして、その関係で、現在も県民企画講座のウォーキング講座、とくしま学博士のウォーキング講座というのを、同じくとくしま学博士の先輩と一緒に、4月、5月、6月、それから10月、11月、12日の第一月曜日午後、それから、第三月曜日午後と南庄町の自治研修センターでやっております。もう5年目になります。今まで多いときで14～5人、少ないときでも4人とか5人とか（受講生が）おりますので、延べでおそらく200人近い方が一緒にウォーキングをされたということで、非常によかったということで喜んでいただいております。

それから、先ほどお話されました放送大学のご指導を受けまして、「知の交流拠点プロジェクト」とか「学びの森講演会」でも1時間30分ぐらいの講演ですけども、やらせていただきました。良い経験になったと思います。これは、平成25年に徳島大学の大学開放実践センター、そこで生涯学習研究員というのがありまして、そこで2年間勉強して修了しますと、「市民活動支援士」という称号をいただけます。その後、「徳大まなび蓮」の会員になるということで、子どもさん相手に、小さなボランティア活動みたいなこともやっております。

私がお願いしたいのは、生涯学習って知事さんものすごく推進しておられますけれども、まだまだこれから、もっともっと高齢者が積極的に取り組んでいけるような雰囲気を作っていただきたいなというふうに考えております。私が徳島大学大学開放実践センターに入学したのは、73歳ぐらいで、そこから2年間勉強して、今、76歳です。そういうことです。

## ○ Q委員

私は常々徳島県が学びのこういう政策をされているのは、素晴らしいと感謝をしています。皆さんからの意見で出ましたけれども、常々自分が学んだり、講座を持ったりしておりましたら、こんなこと、もっと子どもの時に教えてもらってたらよかったな、学んでたらよかったなと実感しております。やはり学校では文科省の指導要領もありますから、ちょうどにはいかないかもしれませんが、なんらかの形で、子どもさん方に、そういう時間を、教材を与える機会を考えていただけたらと思います。それはどんなことかと言いましたら、例えば、県の施策のテレワーク構想、そういうところで実際に活躍しておられる会社、そして主催者がいるわけですから、そういう人に頼んで一般人も対象にあるいは、子ども達を対象にかみ砕いたような講座を考えていただけたらいいなと思います。

## ○ R委員

邦楽協会と言いますのは、日本伝統音楽、琵琶とか尺八とかそのような日本伝統音楽の実演家団体が集まって年に1回、邦楽大会を開催しまして、2018年に50周年を迎えるところになっております。私の立場から申し上げますと、もうすでに大切に育成していただいているところではあるんですけども、日本伝統音楽、また徳島県の郷土の文化、非常に貴重な価値の高いものがたくさんあると思います。そのようなことをまた、今後とも継続、また更に充実していただければ大変ありがたいな思います。それからもう一点については、先ほどからおっしゃっていただきましたように、すごいなと思って、この度この教育に関わらせていただいて、どこでも誰にでもが学べて、それがしかも循環しているという、本当に素晴らしいなと感謝の気持ちを持ちました。ただ、これ一冊読もうと思うとすごく時間がかかる、PDFもありがたいなとも思いましたし、その見え方にもう一工夫というのも本当にそうだなと思って、例えば、日本伝統音楽の琴・尺八については、芸術・文化のところかなと思ったんですが、そこにはないんです。別のジャンルのところがありまして、だから、キーワード検索のところをもう少し、まずはというところで充実していただけたらどうかなと感じました。

## ○ 会長

ありがとうございました。まだまだ御意見おありになると思うんですけども司会が不手際で時間が超過して申し訳ございません。事務局におかれましては、委員の皆様からいただいた御意見・御提言を十分踏まえまして、今後の県立総合大学校の運営に取り組んでいただくようお願いいたします。